

令和7年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 20	公益目的事業 11
主査名	武藤慎一 山梨大学教授	
研究テーマ	SCGE・CGEUE・AI 統合モデルによるリニア山梨県駅からのアクセス交通における空飛ぶクルマ導入可能性の検討	
リニア中央新幹線の整備が進められており、山梨県には中間駅（リニア山梨県駅）が設置される予定である。それにより山梨への来訪者が増加し、また、他地域とのビジネス交流も活発化することから、多大な経済効果が生じると期待されている。しかし、山梨県駅はJR 甲府駅から約 7km、最寄りの JR 小井川駅からも約 3km 離れており、公共交通の便が悪い。そのため、山梨居住者のリニア山梨県駅利用の多くは、自動車利用になると予想されている。これより、リニア山梨県駅への道路アクセスを検討する必要がある。また、県外からのリニア中央新幹線利用者は、基本的には公共交通を利用する。そのため、LRT や BRT などの公共交通によるアクセス交通も必要になる。実際、山梨県では富士トラムというゴムタイヤ式による交通システムの導入を検討している。 これに加えて注目されているものが「空飛ぶクルマ」である。山梨の甲府盆地は周囲を山々に囲まれている。そのため、道路整備も従来の公共交通整備も難しい。そのような場合に空飛ぶクルマが効果を発揮する。山梨県では、空飛ぶクルマの社会実装を目指すためのロードマップを作成している。関西万博では、空飛ぶクルマの試験運行も予定されており、決してその導入は遠い未来ではない。この空飛ぶクルマを、道路交通あるいは既存の公共交通と、どのように輸送分担を行うか、冷静かつ客観的に見定めていく必要がある。空飛ぶクルマの社会実装となると、都市計画や地域計画などにも影響することから、どのタイミングでどの場所に空飛ぶクルマを実装させるか、確度のある方針を示すことが重要になる。そのためには、空飛ぶクルマを含むリニア山梨県駅からのアクセス交通整備評価を適切に行う必要がある。 これまで空間的応用一般均衡（SCGE）モデルや応用一般均衡型都市経済（CGEUE）モデル、さらにリアルタイム交通量を予測する AI 手法による交通基盤整備評価の研究を行ってきた。評価にあたっては、取り扱う空間の大きさに応じてモデルを適用してきた。しかし、空間は連続的であるから、これらのモデルを一体的に取り扱うことが課題であった。そこでまず、SCGE・CGEUE・AI 統合モデルを開発する。そして、リニア山梨県駅から山梨県内各地を結ぶ効率的なアクセス交通整備を検討する。その中で、特に道路や既存公共交通の整備が難しいところへの空飛ぶクルマの導入効果を明らかにすることが本研究の目的である。		